

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

- ①「確かな学力」への取組みを通して、学習習慣の定着を図るとともに、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
- ②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
- ③「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

ウ 大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る

※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、68% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

※学力生活実態調査等における学力レベルの維持、授業外学習時間の増加

(2) カテゴリー制の充実

ア 「人文ステップアップコース委員会 (JSI)」が中心となり、ステップアップコースの一層の充実とともに、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

※ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、25% (29年度) ⇒ 35% (2020年度)

(3) キャリア教育の推進

ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開する

イ カリキュラムの充実・改善と「学校経営推進費」により整備した「進路指導室」を活用し、生徒の希望する進路に応じた指導・支援のより一層の充実を図る。

※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、約75% (29年度) ⇒ 85% (2020年度)

※学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を67% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を醸成する

※1、2年生の部活動加入率60% (29年度10月) ⇒ 65% (2020年度10月)。登校遅刻数1169 (29年度) ⇒ 1000以下 (2020年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、60% (29年度) ⇒ 70% (2020年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、64% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

(2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、74% (29年度) ⇒ 82% (2020年度)

※学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、71% (29年度) ⇒ 80%以上 (2020年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向け、「将来構想委員会」及び「7つのチーム」を軸に、組織・教員間で連携・協働し各アクションプランを推進する

(「7つのチーム」: ①授業力向上 ②服装検討 ③地域連携・広報 ④教員間連携 ⑤学校紹介ビデオ・パンフ作成 ⑥学習意欲向上 ⑦学校説明会)

ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理

※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、60% (29年度) ⇒ 70% (2020年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめて世代継承の活性化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、50% (29年度) ⇒ 60% (2020年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 部活動や体育祭、文化祭での参加・交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣(学習支援)等による高大連携を一層前進させる

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、50% (29年度) ⇒ 60% (2020年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒21%、保護者23% (29年度) ⇒ ともに30%以上 (2020年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (H29⇒H30)	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上と確かな学力の育成</p> <p>ア 授業に集中する環境づくり</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり</p> <p>ウ 大学入学者選抜改革等を踏まえた基礎学力の育成、学習習慣の確立</p> <p>(2) カテゴリー制の充実</p> <p>ア ステップアップコースの検証とカテゴリー制全体の充実</p> <p>(3) キャリア教育の推進</p> <p>ア 年間目標の具体化と検証</p> <p>イ カリキュラムの充実・改善</p> <p>ウ 生徒への支援の体系化と環境整備</p>	<p>(1) ア 学びに向かう姿勢づくり、机上整理等の授業規律の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒との良好なコミュニケーションの実現 校内授業見学週間の活性化(見学しやすい条件整備等)と研究授業や研修の充実 <p>イ 各教科・科目の学習の内容と方法の両面から生徒の学びを質的に高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 <p>ウ 朝学(文章力・集中力・見通し力の育成)及び新学習ツールの効果的な活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習方法等の相談支援、家庭学習習慣、自習室活用の促進等、生徒に懇ろに働きかけ、質量ともに授業外学習の充実を図る。 <p>(2) ア カテゴリー制全体の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ステップアップコースの効果検証 学習指導要領の改訂等を踏まえ、現状と課題を明確にし、新カリキュラムの検討を進める 理系進学対応の強化 <p>(3) ア 生徒が身近な存在をモデルに将来を考えたり進路を考えたりできる機会の充実。</p> <p>イ 進路実現に必要な力について議論を集約しカリキュラムに反映させる。</p> <p>ウ 「学校経営推進費」により進路指導室を整備・進学及び資格取得に向けた講習や面接指導等を充実させる。支援体制の体系化・組織化を図る。</p>	<p>(1) アイ 学校教育自己診断(以下、「診断」)【生徒】学習・授業関係項目で肯定的評価(以下、「肯定」)の平均(68%⇒73%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長授業観察(年間2回実施)、面談の充実 診断【生徒】「他の先生が授業を見る」肯定(46%⇒50%) <p>イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で80%以上、診断【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(52%⇒55%)、診断【教職員】「図書館の活用」(34%⇒40%)</p> <p>ウ 円滑実施、効果について検証</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業外学習時間の増加 <p>(2) ア 大学進学で一般入試まで(最後まで)努力する生徒(25%⇒30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月から検討11月迄にまとめ <p>(3) ア 診断【生徒】【保護者】進路関係項目肯定(生:77%⇒80%、保:73%⇒78%以上)</p> <p>イ (2)ア(11月迄にまとめ)</p> <p>ウ ・9月稼働をめざし整備。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診断【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」関係項目肯定平均(67%⇒70%) 	
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活</p> <p>ア 部活動、生徒会活動の活性化</p> <p>イ 遅刻指導、清掃活動推進</p> <p>ウ 服装について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実</p> <p>ア 情報の共有や体制づくり及び環境整備の充実</p> <p>イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実</p> <p>(3) 交通安全指導、防災教育の充実</p>	<p>(1) ア 部活動加入の促進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 勧誘活動、部活動の発信力強化(学校HP等) 図書委員活動の更なる充実 生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実(学校説明会、国際交流活動等での活躍) <p>イ 遅刻指導、美化活動の更なる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登校遅刻の更なる減少 清掃の強化、保健委員活動の更なる活性化 <p>ウ 平成31年度制服導入に向けて取り組む</p> <p>(2) ア 「生徒支援委員会」の効果的運用を軸に教育相談体制の充実・強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 運用サイクル定着と、運用のための研修実施(「高校生活支援カード」活用、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等) 教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 効率的、効果的な生徒情報の共有、ユニバーサルデザインに基づく授業等の整備 <p>イ 人権教育の一層の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめ防止委員会」と各種会議等との連携 いじめ防止アンケート等の活用と対応の充実 <p>(3) 交通安全指導(特に下校時)、防災避難訓練等の防災教育の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(60%⇒63%)、1年は65%以上を目標。HPの定期更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書委員活動、生徒会活動の具現化(新規又は改善2件以上) 診断【生徒】「生徒会活動は活発」肯定(60%⇒65%) <p>イ 年間登校遅刻1100以下(H29:1169)、診断【教職員】清掃関係項目肯定(46%⇒50%)</p> <p>ウ 計画通り着実に進める</p> <p>(2) ア 診断「相談・支援関係」項目肯定(【生徒】75%以上、【教職員】68%⇒70%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」肯定(71%⇒75%)</p> <p>イ ・診断【生徒】「いじめなどへの対応」肯定(73%⇒75%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 診断【生徒・保護者】「人権尊重」項目肯定平均(74%⇒75%以上) <p>(3) 診断【生徒】【保護者】「防災関係」項目肯定(生:76%⇒80%) 保:75%⇒80%)</p>	
3 学校の組織力向上をめざした取組み	<p>(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化</p> <p>ア 学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実</p> <p>イ 学校運営改善に向けたアクションプランの推進</p> <p>ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員のOJT推進</p> <p>ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化</p> <p>イ 世代継承の取組み</p> <p>(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化</p> <p>ア 高大連携</p> <p>イ 中高・地域連携</p> <p>ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア・全教職員によるタイムリーかつ効率的な「報・連・相・確認」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 再編された分掌業務の円滑な運営を図る。 指導方針、運営方針の共通理解と徹底 各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解 個人情報保護の徹底 コンプライアンスに係る教職員の意識向上 <p>イ 「将来構想委員会」及び「7つのチーム」を軸にアクションプランを組織的に推進</p> <p>ウ 各種会議の精選、資料の事前配付等による会議の効率化、教材、各種案内文書等の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外在校時間が多い教職員への個別指導 <p>(2) ア・初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、研究授業、示範授業等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 <p>イ 学校全体での育成に向け、全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。</p> <p>(3) 市内小中学校、地域との連携を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会、部活動、行事等での交流の充実 オープンキャンパスの充実、参加者の増大 広報ビデオや新リーフレット等の充実 <p>ア 高大連携の推進を図る。</p> <p>(大学生の学習支援派遣、協働プロジェクト、留学生交流、研修依頼等)</p> <p>イ 中高・地域連携の推進を図る。(インターシップ受入、授業見学、部活動交流等)</p> <p>ウ 学校情報の発信強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページのコンテンツ充実、更新の定着 生徒・保護者への周知(配付物・メール等の活用)の徹底 	<p>(1) ア ミドルアップ・ダウンマネジメントの進捗と効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 診断【保護者】【教職員】「個人情報管理」肯定(保:81%⇒85%、教:78%⇒80%以上) <p>イ 各アクションプランの進捗・達成状況により評価</p> <p>アイウ 診断【教職員】「組織連携・運営改善」関係項目肯定の平均(60%⇒65%)</p> <p>ウ 個別指導を毎月実施</p> <p>(2) アイ 診断【教職員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(50%⇒55%)</p> <p>イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 連携関係の新規又は改善を少なくとも2つは行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等への参加者数(508⇒600以上) 診断【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」肯定(50%⇒55%) <p>ウ 診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定(生:21%⇒30%、保:23%⇒30%)</p>	